



一心太助

最近では時代劇ドラマが放映される機会が少なくなつてしまいましたが、昭和33年から昭和38年にかけて東映で製作された、中村錦之助(萬家錦之助)主演の『一心太助』を覚えていらっしゃるでしょうか。

腕に「一心如鏡」の刺青をした、人を救うために我が一心をもつて臨み、果たさぬことがなかったという大久保彦左衛門邸出入りの魚屋の物語です。

当社の社名である『介護の太助』は、一心に介護を必要とする方々の助け(たすけ)になりたいの思いから名付けました。今回は車椅子と杖の調整に関して、どのような役立ち(助け)になれるかを具体的に案内させていただきます。



車いすの調整方法とは

車いすは体格に合った機種を選定しなければなりません。ご利用者様のなかには体格や姿勢が適合しないまま車いすに座っていらつしやることがあります。機種にもよりますが、良好な座位姿勢が確保できるように、車いすを調整することが可能です。ちょっとした工夫で姿勢を修正することは可能ですし、ご利用者様の呼吸循環機能、認知機能、摂食嚥下機能の低下予防に大きく貢献できます。

① フットレスト(足置き)の調整

フットレストを調整することで、高さを変えることが出来ます。股関節と膝関節の角度が、約90度になる位置を目安にします。股関節が曲がりすぎている場合は、太ももが持ち上がり過ぎ、重心も後方になりやすくなります。

② アームレスト(腕置き)の調整

アームレストを調整することで、高さを変えることが出来ます。アームレストの高さが高過ぎたり、低過ぎたりすると体や頭が前屈し過ぎたり、後屈し過ぎたりしてしまいます。座面にクッションを入れる場合と入れない場合を考慮して調節するようにします。

③ バックレスト(背面)の調整

バックレストの調整では、角度の変更や背張りを緩めたり張ったりすることが出来ます。【角度の調整】バックレストの角度は、リクライニング機能がついた車椅子であれば簡単に調節出来ます。

【背張りの調整】

背張りの調整は、バックレストの後面のシートをめくり上げると帯状のマジックテープがついたベルトが出てくれば調整可能な車椅子です。ベルトをきつく引張りながら締めると背張りがピンと張り、緩ませて締めると背張りが緩みます。背張りの調整は、円背の方にも対応出来ます。

④ 座面の高さ調整

【足で自走すること】、「座りやすさ」を基準に調整します。「足で自走する場合は、足裏が床に着いているか、膝の曲がっているか、角度がどうか、実際に自走してうまく足が使えるか、この点を確認するようにします。また、座りやすさについては、足を下ろした時、足をフットレストに乗せた時の座り心地を確認します。座面の高さ調整については、座布団やクッションを入れるかどうかの検討を含めて行います。



杖・ステッキの長さ調整

杖の長さは、歩きやすさや転倒の危険性にも大きく関わってきます。

杖には購入時から長さ調整可能なものと切断することにより長さ調整するものがあります。

杖の長さは「大腿骨の付け根の出っ張った所の骨(大転子)」もしくは「手首の高さ」に合わせます。これに合わせると、だいたい肘は約30度程度曲がった状態になります。この角度が最も腕に力が入りやすい位置だからです。

杖は、体の左右を比較して良い方の足側に持ちます。それは両足と杖の3点でつくる体を支える支持基底面が広くとれ、安定する

ためです。

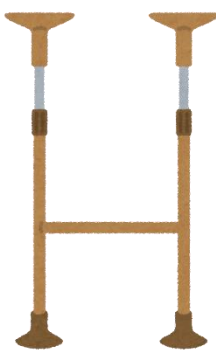
杖には正しい握り方というものがありません。人差し指と中指で杖を挟み握るのが正しい握り方です。

杖先端の先ゴムはすり減る前に交換しましょう。杖も長く使っていると先ゴムがすり減っていき、ミゾが無くなるほどすり減ってしまうと、滑り止めの機能が働かず簡単に滑ってしまいます。先ゴムは単品で販売していますので、すり減ったら交換することが出来ます。



調整だけでなく

福祉用具を安全かつ有効に活用頂けるように、調整だけでなく、気になることが御座いましたら何なりとお申しつけ下さい。機種によっては調整できない場合もありますが、そういった場合は、より適合する代替品をご提案させていただきます。



オミクロン株対応2価ワクチン

本紙がお手許に届くころには、接種が開始されていると思われれます。オミクロン株対応2価ワクチンは、従来株とオミクロン株(BA.1)の両方に対応した「2価」のワクチンです。

従来型ワクチンを上回るオミクロン株への効果が期待されます。異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

従来型ワクチンを2回以上接種し、最後の接種から5か月以上経過(短縮される可能性があります)した方が接種対象になります。副反応が現れる可能性もあるため、強制ではなく希望者に対して無料で接種することになっています。

65歳以上の高齢者は重症化リスクが高いため接種が推奨されています。ご自身の体調等を考慮して自己判断して下さい。残念ながら、ワクチン接種をしてもコロナ前の生活が出来るようには

ならないようです。

